

第 14 回 「音の日」 ご挨拶

2007 年 12 月 6 日
社団法人 日本オーディオ協会
会長 鹿井 信雄

年末に入りお忙しい中を「音の日のつどい」にご参集いただき有難うございます。

第 14 回「音の日のつどい」の開会にあたり、CD21 ソリューションズを加えた主催 6 団体を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本席には、ご多忙の中、CDの開発を牽引し音楽メディアに育てられた大賀 典雄様 はじめ、多くのご来賓にお越しいただき、誠に有難うございます。

本日は「音の日」に当って、午後から「CD 25 周年を記念するシンポジウム」が開催され、先刻は本年の「音の匠」ならびに「日本プロ音楽録音賞」の顕彰式が行なわれました。

この栄えある賞を受賞された皆様方と、シンポジウムご登壇の方々をお迎えしての「音の日のつどい」となります。

それぞれ各賞の受賞者の皆様、そしてCD25 周年を祝う皆様方に心よりお祝いを申し上げます。

さて、今から 15 年前、日本オーディオ協会では社団法人化を機に、「音」というものを文字や絵画のように時空間を超えて記録に残す、というトーマス・エジソンによる「フォノグラフ」発明日の 12 月 6 日を「音の日」として制定し、オーディオ及び音楽産業の発展を願って、以来関係する諸団体の皆さんと手を携え記念行事を行って参りました。

優れた音楽作品を制作した録音エンジニアの方々にはこれまで、14 回に亘り「日本プロ音楽録音賞」を贈呈し、音とその感性を通じて匠の技により文化や生活に著しく貢献をなされた方々を 12 回に亘り「音の匠」として顕彰させて戴いて参りました。

今年めでたくご受賞なされた方々の優れた感性に心より敬意を表したいと思えます。

Record（記録する）という言葉は原語のでは（再び）＋（心が伝わる）という意味を持つとされています。

人間の五感のなかでも、音の感性の世界ではある時間連続で聞くことではじめてその心が伝わり、美しい音や音楽は、また、何度でも新鮮に“その心”を聴ける音特有の人間感性の世界でもあります。

本年はCDが発売され25 年を迎え、これを記念して「音の日」の記念行事として、さきほど来「CD 発売 25 周年記念シンポジウム」を開催させていただきました。

講師の皆様からご苦労話や先への展望をお伺いでき、皆様にも大いに御参考になったかと存じます。

お話をいただいた皆様、大変有難うございました。

音や音楽はそれを受け聞く方々の感性と環境が大切な世界です。日本オーディオ協会では皆様共々、広く一般の人達の感性が音や音楽によって益々たかまるよう、今後も一層、普及と啓蒙に努めて参りたいと考えております。